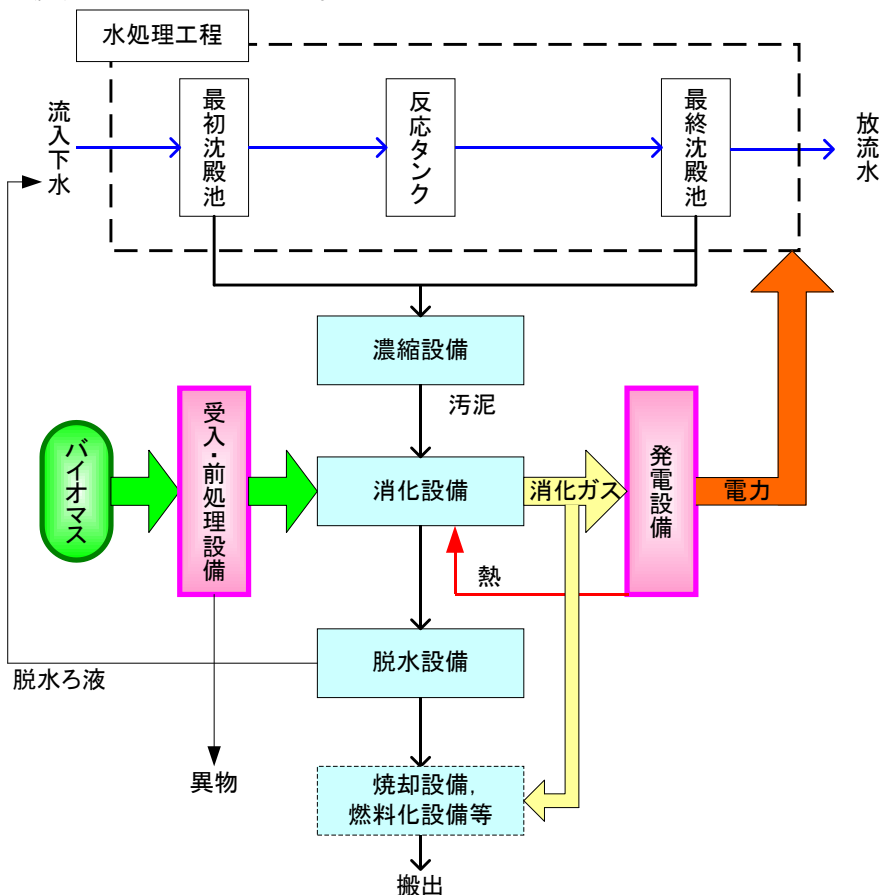


【対策名】下水汚泥及び生ごみ等地域のバイオマスとの混合消化による消化ガスの増量

【概要】

バイオマスは，受入・前処理設備で異物を除去されたのち，下水処理工程から発生した濃縮汚泥と一緒に消化タンクへ投入する。得られた消化ガスの利用は，要求されるガス精製レベルが低く設備投資も安価な焼却炉補助燃料や燃料化設備等での使用を優先し，残りのガスは発電設備（熱回収有り）に利用する。発電によって得られた電気は処理場内等で使用し，熱は消化タンクの加温に使用することが想定される。なお，最適な有効利用方法は自治体の状況（周辺施設等）によって異なると考えられるため，個別に検討する必要がある。



【導入効果等の例】

人口が約 9.5 万人の C 市を対象に地域バイオマス受入の検討を行なった結果，温室効果ガスの削減効果は，約 1,540t-CO<sub>2</sub> と試算された。

【出典・参考文献】

公益財団法人日本下水道新技術機構，下水処理場へのバイオマス（生ごみ等）受け入れマニュアル（2011/3）